



ぶどう特報 #9



2023 年 7 月 13 日
JA 中野市園芸課
JA 中野市ぶどう部会

6 月下旬の降雨により、房にべと病の被害が確認されています。被害房は切除し、処分してください。
ベレーゾン期（水回り期）直前の新梢管理は縮果症防止の為、極力控えてください。
ベレーゾン期：果粒が軟化し弾力が出てくる時期を指す。黒系品種では着色始期。

2023 年	満開	水回り (ベレーゾン) 目安 (満開 35～45 日頃)	収穫開始時期目安
巨峰	6/10	7/15～7/25 頃	9/1 頃 (満開 80～90 日頃)
シャインマスカット	6/17	7/20～8/1 頃	9/20 頃 (満開 90～100 日頃)

【8 月上旬の定期散布 * 共通】

散布時期	前回から 10 日後	品種名 : _____ 散布日 : ____ 月 ____ 日 散布量 : _____ ℓ	品種名 : _____ 散布日 : ____ 月 ____ 日 散布量 : _____ ℓ
散布薬剤	水 100 ℓ 展着剤 (アビオン-E) 50 ml I C ボルドー66D 2.5 kg (一・一) テルスター水和剤 100g (14 日前・1 回)	品種名 : _____ 散布日 : ____ 月 ____ 日 散布量 : _____ ℓ	
散布量	400ℓ/10a		
適用病害虫	晩腐病、さび病、べと病、黒とう病、チャノキイロアザミウマ		
注意事項	① 【コガネムシ類対策】テルスター水和剤に代えて、<u>劇イカズチ WDG1,500 倍 (21 日前・5 回)</u> を使用してもよい。ただし、早生種 (ナガノパープル等) は収穫前規制に注意する。 ② 【ボルドー液代替】IC ボルドー66D に代えて、ムッシュボルドーDF500 倍、コサイド 3000 の 2,000 倍のいずれかを使用してもよい。<u>ただし、ムッシュボルドーやコサイド 3000 を使用する場合は、高温時や降雨後の散布で薬害を生じる恐れがあるため、クレフノン 100 倍を加用する。</u>		

【8 月中旬の定期散布 * 共通】

散布時期	前回から 10 日後	品種名 : _____ 散布日 : ____ 月 ____ 日 散布量 : _____ ℓ	品種名 : _____ 散布日 : ____ 月 ____ 日 散布量 : _____ ℓ
散布薬剤	水 100ℓ 展着剤 (アビオン-E) 50 ml IC ボルドー66D 2.5 kg (一・一)	品種名 : _____ 散布日 : ____ 月 ____ 日 散布量 : _____ ℓ	
散布量	400ℓ/10a		
適用病害虫	晩腐病、さび病、べと病		
注意事項	① 【ボルドー液代替】IC ボルドー66D に代えて、ムッシュボルドーDF500 倍、コサイド 3000 の 2,000 倍のいずれかを使用してもよい。<u>ただし、ムッシュボルドーやコサイド 3000 を使用する場合は、高温時や降雨後の散布で薬害を生じる恐れがあるため、クレフノン 100 倍を加用する。</u>		

8 月上旬に栽培日誌の配布があるまでは、ぶどう特報に散布日・散布量を記録し、保管してください

裏面もお読みください。

参考：新梢管理について

1. 夏季新梢管理（伸びた枝の切除）

実施時期：満開 30 日頃までに実施

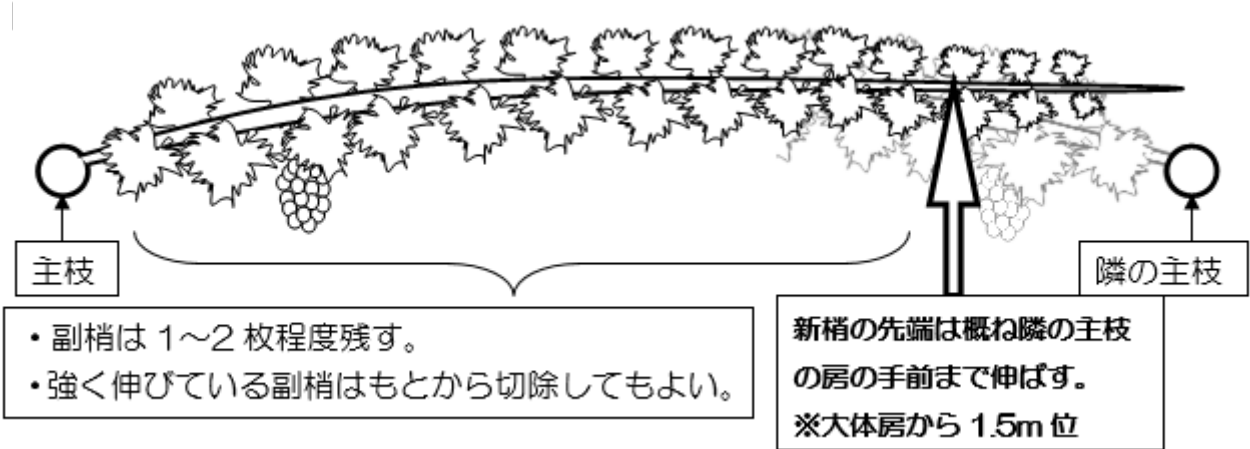
【満開 35～45 日頃は縮果症（※1）が発生する恐れがあるため実施しない】

強い副梢を整理 ⇒ 房に養分を集中させる

- ・ 枝に無駄な養分がいかないように、副梢を適宜処理する。
- ・ 若木や芽が飛んだ箇所は房に直射日光が当たらないよう副梢 1～2 枚を残す。

シャイン短梢	目的：葉枚数確保・粒に養分を転流させ果実肥大促進・裂果軽減 ① 新梢先端が反対側の主枝の房に届いている場合は房の手前で切除。 ② 副梢が葉 3～5 枚程度伸びていたら葉 1～2 枚となるように副梢を随時摘心。
黒系 赤系 短梢	目的：葉枚数確保・粒に養分を転流させ果実肥大促進・裂果軽減 ① 新梢先端が反対側の主枝の房に届いている場合は房の手前で切除。 ② 房の上周辺に副梢が発生している場合は副梢を切除する。（房に日光を当てる） ③ 房先 2～3 枚目より先の副梢は葉 3～5 枚程度伸びていたら葉 1～2 枚に摘心。
長梢 (自然系)	① 棚面が暗い箇所・葉の黄変(ムレッ葉)が発生している箇所を中心に新梢整理する。 ② 副梢が発生している場合は随時切除する。（房に日光を当てる・葉液を通りやすく） 副梢に発生した花穂（2 番なり）を副梢ごと切除する。

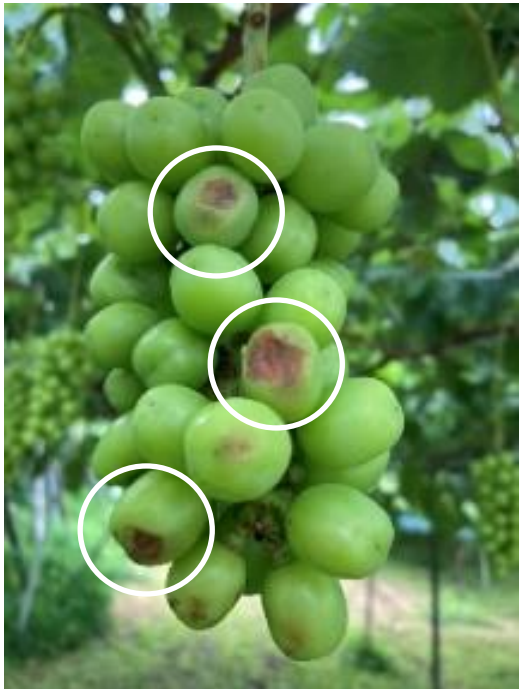
図：短梢の新梢管理



2. ベレーゾン（水回り）以降の枝管理

- ・ 着色系品種はベレーゾン確認後早めに房上の明るさを確保する ⇒ 着色促進
- ・ 徒長した枝はなるべく早めに整理をする。（房への養分転流を促す）
- ・ ムレッ葉（基部葉の黄変）がある場合は副梢を多めに残し葉枚数の確保に努める。

※1 縮果症症状 原因：ベレーゾン直前急激な摘粒や枝管理 被害果は摘粒で取り除く



特報 #10 8/1 付け発行予定。8 月下旬・9 月上旬定期散布記載予定。
栽培日誌発行予定。